

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成26年5月8日（木）

午後 1時30分 開会

午後 2時03分 閉会

場所： 全員協議会室

〔上程議案の補足説明〕

- 1 専決処分の報告について（施設の管理瑕疵に起因する事故の和解及び損害賠償の額の決定）

小坂和正教育部長：資料に基づき説明

質疑なし

- 2 半田市土地開発公社の経営状況について

水野節総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

〔報告案件〕

- 1 半田市、阿久比町及び武豊町による学校給食センターの広域化について

小坂和正教育部長：資料に基づき説明

中川健一議員：この交渉については、誰が実務的に責任者としてやっていたのか、教えていただきたいのが1点。もうひとつが結局出来ない理由が負担経費の割合とかそういうコスト面での問題が書いてありますけれど、ゴミ処理場の場合は合意が出来ているわけですが、なぜこの分野では上手に合意が出来なかったのか。

小坂和正教育部長：交渉の責任者という事でございますが、当初は実務レベル、給食センター所長レベルの会議でいろんな課題を出しまして協議を進めています。ある段階では教育部長、最終的には副市長、市長の協議の中で決定した結果でございます。あと、出来ない理由ですが、施設がひとつになるというメリットは、建設コストの部分であると思います。ただ、食数は半田が圧倒的に多くて他が小さい。食数割をどの程度に持っていくかによって、運営面のメリットが、半田は均等割が高い方がメリットが大きい。小さい町は均等割が低い方がメリットが大きいという事でその合意点がなかなか見つからないという事と建設予定地の取得の方法がなかなか難しい課題としてあげられていた事です。

中川健一議員：半田市は多少譲歩してでも合意する方向だったのか、他の2町が交渉になかなかのってこなかったのか、その辺りはどんな感じだったのでしょうか。

藤本哲史副市長：これはそれぞれ1市2町の受け取り方の感覚にもよると思いますが、どうしても埋めがたい意思の齟齬というのは、土地の確保をどういう方法で取得するか、ご存知のとおり南部市場の所で、南部市場の今後の経営のために売り場面積の南にある、いわゆる駐車場の部分を市町で分割して保有しようという事になりました。武豊町も阿久比町も名義的に所有している土地を活用して、給食センターを建設する土地を確保する事を相当大的なウエイトで条件として示

しています。これは問題が全く異なる事で、半田市としては、それはどこまで行ってもなかなか合意する事で出来ませんというところで、これ以上議論していても恐らく到達点が見いだせないなので、ここで一旦議論は終結しましょうという事です。それから、それぞれ持っている給食センターの対応年数で、例えばゴミ焼却施設のようにまだ7、8年議論をしても時間的な余裕あるという場合と異なって、それぞれもう建替えないといけないとか、時間的な余裕をこれで更に費やすという事が出来ないという条件もございまして、ここに至って、一旦議論を終了しましょうという事で最終的に市長、町長の会議で確認したところでございます。

- 2 新美南吉生誕 100 年記念事業実行委員会 平成 25 年度事業収支決算について
小坂和正教育部長：資料に基づき説明
質疑なし

〔その他〕

- ・アメリカワシントン州の訪問について

榊原純夫市長：前回、全員協議会の場で、4月22日からワシントン州へ出張させていただき、報告をさせていただきました。その内容について報告させていただきます。冒頭申し上げましたとおり、4月22日から28日の7日間、5泊7日で知多半島5市5町のうち、大府市長、知多市長、東浦町長を除く7市町の首長、そして地元代議士の令夫人、愛知県の担当部次長、セントレアの役員等とアメリカワシントン州を訪問させていただきました。目的はセントレアの開港10周年を記念いたしますとともに、半田市もそうですが、愛知県内で部品の約35%が生産されております最新鋭の旅客機ボーイング787の組み立て工場を訪れることが主な目的でございます。セントレアからは787が離発着しておりませんので、成田から全日空機、これは787でございますが往復ともそれを利用させていただきました。ワシントン州はアメリカ西海岸でカナダと国境を接しておりまして、州都シアトルはシアトルマリナーズの本拠地でもございますし、また、スターバックスコーヒー発祥の地、Amazon.comやマイクロソフト社、そしてコストコが拠点をおいている地でございます。そしてまた美浜町出身の音吉を始めとする3人が難破船で漂着したのもワシントン州でございます。現地ではシアトルの日本総領事館、シアトル市役所、隣接をしていますバンクーバー市と地元の大学の訪問の他、シアトルセンターという大きなホールで開催をされておりました桜祭り会場で半田市や知多の観光PRも実施させていただきました。このうち、25日には、ボーイング社のシアトル市に隣接いたしますエバレット市という所がございますエバレット工場を訪問いたしました。この工場は世界最大規模の容積を誇る建築物でございまして容積は1,330万立方メートルであります。この中でボーイングの飛行機が組み立てられておりました。このエバレット工場は組み立て専用工場でございまして、先ほど申し上げました787ドリームライナーやトリプルセブンや747、これはジャンボ機でございますが、これもまだ貨物用の輸送機としては需要が高いため組み立てられておりました。私も不

勉強で承知しておりませんでした。ジェットエンジンというのは、世界の自動車メーカーの２社しか生産しておらず、イギリスのロールスロイス社とアメリカのゼネラルモーターズ社、このうち機体を買われる航空会社の要望に応じてエンジンもそのどちらかを設置しているという事です。ただ、両エンジンとも日本の企業が部品を供給しているという事も教えていただきました。そして787は冒頭申し上げましたとおり、日本で35%が生産されておりますが、トリプルセブンや747などはイタリア或いはオーストラリア、場合によっては中国からも部品が輸入されておりました。日本の工業が進んでいるというような安閑とした気持ちでいますとコスト面ですとか技術面力でも追いつかれれば世界の各国に追いつかれ、追い抜かれるような現状がございました。更に日本が工業技術力を磨くとともに総領事館の領事さんもボーイング社の工場長さんも大勢して地元の首長が訪れた事を大変喜んでいただきましたので、そういった面も含めてもうちょっと日本が航空産業の特区であるという特徴を生かしてPRしていくことも今後継続的におこなっていく事が必要である事を痛感させていただきました。この経験を生かし本市に立地をしておられます富士重工さんにも更にその旨をお伝えさせていただき、半田市の企業の発展のために尽力してまいりたいと思った7日間がございました。以上報告させていただきます。

質疑なし

- ・半田赤レンガ建物整備工事の入札結果について

堀寄敬雄企画部長：半田赤レンガ建物整備工事は、地元経済の活性化、市内建設企業の育成の機会が得られるようにという事で、地元建設企業を含めます特定建設工事共同企業体、特定JVと呼ばれるものの参加を条件としまして、制限付き一般競争入札の公告を平成26年4月2日に実施いたしております。そして清水建設株式会社名古屋支店と市内企業であります株式会社七番組で構成されます、清水七番特定建設工事共同企業体の一企業体から入札参加の申し込みがありまして4月24日に電子入札を執行いたしましたところ予定価格超過のため不調となりましたので、ご報告申し上げます。今後につきましては、設計内容の見直しを図り、再度地元建設企業を含む特定JVによります制限付き一般競争入札を行う予定といたしております。以上で報告を終わります。

質疑なし